

D^{でーえっくす}X-E^{いい}さが

スーパーティーチャーによる1人1台端末を活用した授業公開
会場 佐賀県立致遠館高等学校



松高 和秀 教諭

2025.12.15 授業公開

スーパーティーチャー

<ICT活用のポイント>

- ①実験操作の説明をプレゼンテーションを用いて行うことで、操作方法を確実に伝え、安全性を確保できる。
- ②実験結果の集約（グラフ化）をリアルタイムで、行うことで再現性を確認しやすく、グラフ化が時短できる。
- ③実験結果の考察をMetaMoji Classroom3で行うことで、ブレインストーミングが円滑に進むとともに、教師も各グループの考えを瞬時に把握できる。

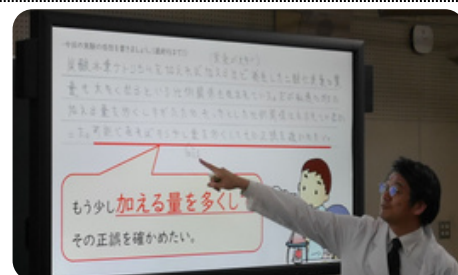
ICTの効果的な活用によって、生徒の主体的・対話的で深い学びが実現された素晴らしい授業でした。



導入

1. 前時の授業を振り返る。
 - ・生徒たちの実験結果や、生徒の感想を紹介することで、生徒たちに実験内容を身近に感じさせる。
2. 本時の学習内容を確認する。

実験およびその考察を通して、発生する二酸化炭素の量とシュウ酸の物質質量の関係を見出す。



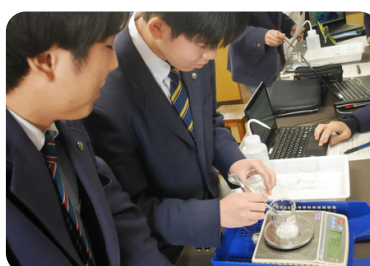
前回の感想の紹介

実験操作

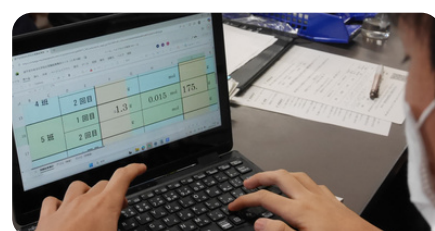
3. 実験操作を理解する。
 - ・説明はすべてプレゼンテーションソフトを使って行うことで、生徒たちに実験操作をより正確に伝えるとともに、実験の安全性も高める。
4. 実験を2回行う。



実験の説明スライド



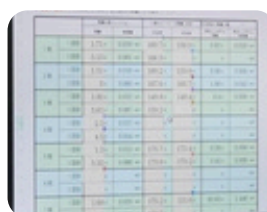
実験している生徒たち



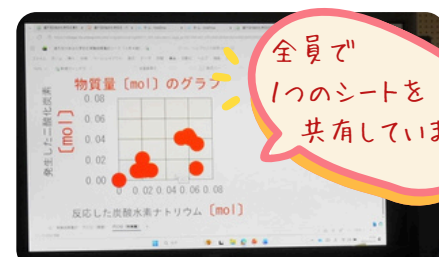
実験結果を入力

実験結果の集約

5. 実験結果を集約し、全員で1つのグラフを作る。
 - ・表計算ソフトを用いることで作業時間を短縮すると同時に、計算の煩雑さから解放し授業のねらいに注目させる。
 - ・他の班の結果も確認できるようにすることで、実験に再現性があることに気付かせる。



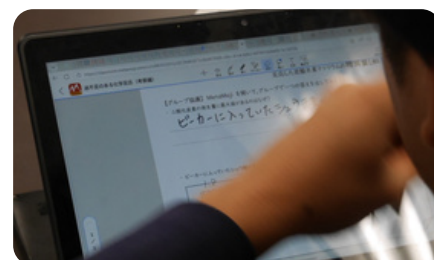
表計算ソフトで集計



各グループの記録をもとにグラフ化

考察

6. 作成したグラフの形に関する考察を行う。
 - ・生徒たちの考察をMetaMojiを用いて共有する。
7. グループ協議により、シュウ酸の質量が2倍だった場合のグラフを予想する。
 - ・それぞれの要素についてグループ協議を行い、内容をまとめたうえで、グループとして1つのグラフを書く。
 - ・MetaMoji上のワークシートに従って協議を進めることで各班の進捗状況をリアルタイムで確認し、適切な声掛けを行う。
 - ・代表生徒に発表させ、考察をクラス全体でシェアリングする。



考察を書いている生徒

まとめ

8. この単元で学習したことを総括する。



発表している生徒

「SAGA Eコネクト」ではたくさんの事例を紹介しています。

<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>

先生たちの広場

ID : ○○○○

PW: ○○○○

